

海老名市立社家小学校 学校運営協議会 議事録
(令和7年度 第2回)

- 1 日時 令和7年10月9日(木) 13:30～15:00
- 2 場所 海老名市立社家小学校 会議室
- 3 出席委員 津々木美幸委員長、三田英樹副委員長、大乘文孝委員、佐々木宏文委員、春日井美穂委員、水島孝一委員、上田千春委員、金子幸枝委員、浅井大輔委員、尾崎由美委員、大部信介委員

4 会議の内容

(1) 挨拶

津々木会長：まだ若干蒸し暑い日が続いているがいかがお過ごしでしょうか。先日、中学生のオンラインカジノに関わる犯罪が報道されていた。聞けば、小学生から重ねていた事案とのことであった。ネット犯罪に関わらず、薬物などの犯罪も低年齢化していることを危惧している。やはり家庭への啓発が重要である。

浅井校長：2学期開始時に比べると徐々に熱中症の心配が少なくなっている。幸いなことに体育館も完成し、エアコン完備のもと体育等の授業ができており、子どもたちの教育活動に良い影響がある。先ほど委員長からあった通り、ライン・ネット上のトラブルはここ数年頻発しているが、やはり低年齢化していることへの懸念がある。一部の子たちではあるが、大人が聞き知らぬ所で起きている状況となっている。やはり家庭に啓発していく必要性を感じる。学校でも毎年、非行防止教室という形で全学年に指導している。今後、学校がどのように発信していくべきか考える必要がある。

(2) 現在の教育活動について

浅井校長：幸い社家小学校は穏やかに教育活動を進められている。一点課題として挙げるとすれば、不登校児童の存在である。夏休み明けに増加しているわけではないが、学校に足が向かない児童も一定数いる。だが、登校に苦戦している子どもや当該の家庭と学校がつながることができている点はあるがたい。子どもとともに当該の保護者のケアをしていくことも必要だと考える。子どもたちや家庭からのサインを見逃さないようにし、外部団体も含めて助けていただきながら、支えていきたい。

(3) 学校評価について

浅井校長：今年度から、学校評価アンケートは学校運営協議会の皆様には母数が少ないので、経年分析が難しいため実施をしない方向でいきたい。運営協議会の皆様には、ぜひ生の声で忌憚のないご意見をいただきたい。

(4) 秋季運動会について

尾崎教頭：10月18日の土曜に予定されており、いよいよ二週間を切ったところである。皆様には過日案内を送付させていただいた。委員の皆様には席をご用意してあるので、ぜひ子どもたちに声援を送っていただきたい。

(5) ふれあい教室について

大部総括教諭：11月15日土曜の実施に向けて、残り一か月程度となった。進捗としては学校応援団の皆様にご尽力いただき、講座の選定、確定という段階となっている。今後、対象学年が決定したところで、応援団の皆さんに中心になっていただき、講師との打合せ等進めていきたい。

(6) キャリア教育について

尾崎教頭：本校の特色ある学校づくり実践事業の一つとしてキャリア教育を実施している。子どもたち一人ひとりが将来に希望や目標を持てる力、態度を育てるために何年も前から講師の方に講演をしていただいている。昨年度同様、3年生と6年生で実施したい。三学期実施予定である。現在3年・6年にアンケートをとった状況である。講師の選定など、委員の皆様のお力添えをいただきたい。

(7) 情報交換

津々木委員長：教育界の話になるが、昨今の教員の働き方・負担に懸念がある。OECDの調査によると、日本の教員の残業時間が世界一であると報告されていた。社家小学校の職員の状況はどうか。また、様々な残業や負担が最後は子どもたちに影響してくる心配がある。

浅井校長：一番大きな原因として、勤務時間の中に自分の裁量で使える時間が実質45分程度しかない点が挙げられる。時間内で授業準備や学級事務をこなすのはなかなか難しい現状がある。これを改善していくのは制度等の課題によるところが大きい。

上田委員：先生方が頑張ってくださっている姿に保護者として感謝している。同時に無理をしていないか心配になる時も確かにある。先生も楽しんでやっていただけているなら嬉しく思う。

春日井委員：放課後の過ごし方について。地域の子どもたちに声をかけると挨拶を返

してくれる子が増えてきている。同時に登下校の様子で、歩き方など心配な子たちもいるので、そういった面でも声をかけていきたい。また、先ほど話にあった不登校児童に対して、我々の立場として何かできることがあれば言っていたきたい。

大乘委員：どの学級も落ち着いて授業を行うことができているよかったです。

昨今の学校教育の状況について。学習指導要領の改訂やデジタル教科書移行など今後の大きな変化に対応していく学校は大変であると感じる。将来的に地域がより中心となって学校運営をしていく時代が来るかもしれない。学校をフォローできるように地域がまとまっていく。

佐々木委員：1学期からの子どもたちの成長を感じる。今後、地域と学校の協力体制をもっと強め、局所的で終わらせない体制の構築が肝要である。学校・地域が間口を開いて風通しよくし、より注力していく必要がある。

三田副委員長：先日、有馬中学校の体育祭が行われたが、社家小の卒業生が頑張っている姿が多く見られた。

過日、市教委の社会教育委員会議に出席した。えびなっこしあわせプランに我々大人がどう関わるか、どう動くかを考えることで、より子どもたちの成長に還元できると感じた。

金子委員：同じく有馬中の体育祭に参列してきたが、卒業生が本当によく頑張っていた。また本日来校した際、子どもたちがとてもよく挨拶できていてよかった。

海老名市として進めているフルインクルーシブ教育について。社家小の進捗はどうか。

浅井校長：社家小はある意味すでにインクルーシブの素地がある。学校として職員や子どもたちにその意識は育ってきている。またご協力いただいている1年生の支援ボランティアの取り組みは、まさにインクルーシブとして大きな成果を上げているので、大変感謝している。今後も引き続きお願いしたい。

（８）その他

- ・50周年に向けて。
- ・次回の学校運営協議会は、令和8年2月16日（月）13:30から開催予定。